

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

公営競技 デジタルHUB

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030 年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



公営競技 デジタルHUB

「デジタルHUB」は、公営競技観戦における様々な情報をひとつの窓口を集約し、エンターテインメント性あふれるユーザーインターフェイスと音声会話で、もっと楽しい公営競技観戦を実現します。ファンはアバターと会話するように必要な情報にたどり着くことができ、ご年配の方から若年層まで誰でも使いやすいサービスを実現しています。また、公営競技の各種サービスをデジタル化することにより、紙（オッズ表・パンフレット・出走表）の使用量の削減やインフォメーションカウンタにおける業務の負荷軽減につながります。今回、紙使用量の削減と業務負荷の軽減の効果をCO₂排出量の削減として評価しました。

当ソリューションが貢献可能なSDGsのゴール



働きがいのある人間らしい仕事を実現する。



廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。



ICT導入による生産性向上、業務改善等によりお客様におけるCO₂排出量を削減する。

公営競技 デジタルHUBによる業務の効率化と環境負荷の低減

サービス概要

「デジタルHUB」は、公営競技場を訪れるファンにデジタルサイネージやタブレットで出走表、AIによる買い目予想、人気順オッズや、イベント案内、施設案内、初心者ガイド、よくあるご質問を表示し、より楽しい公営競技場を実現するサービスです。また生成AIの搭載により、ファンは人と会話するように知りたい情報にたどり着くことができます。

当サービスを導入することにより、紙（オッズ表・パンフレット・出走表）の使用量の削減、およびインフォメーションカウンタ業務の負荷低減につながります。ひいては、CO₂排出量の削減、地方の観光業の促進、インフォメーションカウンタ業務従事者のより生産性の高い業務への集中に寄与します。

効果

- ・ CO₂排出量の削減効果：▲約80% ※富士通フロンテック試算

【主なCO₂排出量の削減要因】 ※開催日数300日/年で試算

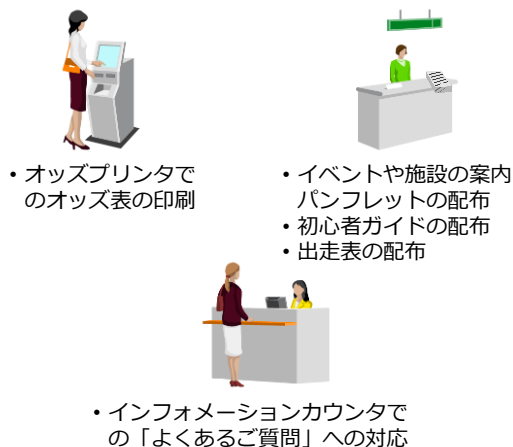
- ・ オッズ表、パンフレット、出走表の各プリンタでの用紙補充、トナー交換時間の削減：約130時間/年
→紙の使用量が削減されることで、用紙補充やトナー交換の作業時間削減されます。
- ・ インフォメーションカウンタにおける「よくあるご質問」への対応時間の削減：約150時間/年
→ファンからの「よくあるご質問」への対応は「デジタルHUB」が対応することで、従事員の業務負荷が軽減されます。

※上記の効果は、富士通フロンテックが試算したものであり、導入する競技場により結果が異なることを予めご承知おきください。

デジタルHUBの導入によって、何故、紙の使用量が削減され、インフォメーションカウンタ業務の負荷が軽減されるのか？

- ① 人気順オッズ、イベント案内、施設案内、初心者ガイド、出走表を表示することができるため、オッズ表、パンフレット、初心者ガイド、出走表の使用量が削減されます。
- ② タッチ操作と音声操作で「よくあるご質問」への対応ができるため、インフォメーションカウンタ業務の負荷が軽減されます。

導入前



- オッズ表、パンフレット、初心者ガイド、出走表を紙で配布していた。
- インフォメーションカウンターの従事員が「よくあるご質問」への対応を行っていた。

導入後



- 人気順オッズ、イベント案内、施設案内、初心者ガイド、出走表をデジタルHUBの画面で表示した。
- タッチ操作や音声操作での「よくあるご質問」への対応もデジタルHUBの画面で実現した。

お問い合わせ先

トータリゼータエンジニアリング株式会社
TA開発統括部 DXビジネスグループ WEBサービスチーム
製品・サービスに関するお問い合わせ：tel-prod@dl.jp.fujitsu.com